

NTSBのB787に関する中間調査報告

NTSBの調査資料ならびに記者発表（3月7日）

○NTSBの中間報告（ボストン、ローガン空港でのB787APUリチウムイオン電池の発火事故）
下記アドレスからNTSBの中間報告書がダウンロードできます。

http://www.nts.gov/investigations/2013/boeing_787/interim_report_B787_3-7-13.pdf

○NTSBの記者発表内容

<http://www.nts.gov/news/2013/130307.html>

4月にフォーラム並びに公聴会の開催を行うことを発表しています。

（報道より）

○ロイター

米NTSBがB787の調査中間報告、発火原因なお特定できず 2013年 03月 8日 08:35 JST

[7日 ロイター] 米運輸安全委員会（NTSB）は7日、ボストン・ローガン国際空港で1月に起きたボーイング(BA.N: [株価](#), [企業情報](#), [レポート](#))787型機のバッテリー発火事故をめぐる調査の中間報告を発表した。ただ、発火原因の特定には至らず、運航再開への足掛かりとなる情報も提示されなかった。

NTSBは、787型機のバッテリーシステムの設計および認証をめぐる公聴会とリチウムイオン電池技術全般に関するフォーラムを4月に開く方針を示した。

デボラ・ハースマン委員長は声明で「フォーラムや公聴会を通じて明らかになる情報は、リチウムイオン電池が持つリスクと利点への理解をNTSBおよび運輸セクター全体が深め、メーカーや規制当局が新技術の安全性をどう評価すべきかを明らかにする一助になる」と指摘した。

NTSBは、ボストン・ローガン国際空港で駐機していた787型機で発火したバッテリーの検証だけでなく、電池システムの認証および検査も含め、包括的な調査を実施している。

数百ページに及ぶ調査関連文書の一部として公表された「中間事実報告書」では、バッテリーに対し実施された検査の詳しい情報が提示されている。一方で、発火の根本原因の特定には程遠いことも明らかになった。

NTSBはまた、システムの安全性と認証に焦点を当てているグループが、ボーイングとジーエス・ユアサ コーポレーション(GSユアサ) ([6674.T: 株価](#), [ニュース](#), [レポート](#))、仏タレス(TCFP.PA: [株価](#), [企業情報](#), [レポート](#))による検査・分析記録を検証していることを明らかにし、調査をめぐる依然として多くの作業が必要であることを示唆した。

報告書では、発火が報告される直前にバッテリーの機能に異常が生じていたことも示された。フライト・レコーダーのデータから、バッテリーの電圧・電流が急激に変動していたことが分かったという。ただ、設計上の32ボルトを超えた形跡はないとした。

着陸の約21分後に、3秒間で3度にわたり電圧がゼロに下がった後28ボルトに上昇する現象が見られたとし、およそ3分後に地上整備員が操縦室に入り、客室内の煙を報告したとしている。